

2016 年度活動報告 GJP 授業： プロジェクトワーク 書く B

早川 杏子（関西学院大学日本語教育センター）

小原 俊彦（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本クラスは、文章で表現する作品制作を学期の課題とし、課題達成のための話し合いや作品作りを通じて、総合的な日本語力を身につけることを目標としたクラスである。対象者は、当該センターにおける総合1～2クラス（初級レベル）の学習者で、今回の受講者は2名であった。1週間に3コマ、計14回の授業を通して、壁新聞の制作を行い、受講者自ら紙面の企画、取材、記事制作、編集作業に取り組んだ。使用教材等は特に無く、参考資料として、『らくらく日本語ライティング（初級後半～中級）』（アルク）「第11課 壁新聞に書く」の一部をコピー配布した。

2. 授業内容

壁新聞制作にあたり、紙面の内容には特に制約を設けず、受講者自身が取り組みたいテーマに基づいて記事を書くこととした。但し、本クラスは、作品作りを通じて、総合的な日本語力を身につけることも一つの重要な目標であった。そのため、単に個別の執筆作業に留まらぬよう、1)インタビュー、2)調査、3)俳句コンテストの3点を含めることを課した。1)に際しては、事前にインタビューにおける流れや表現の知識について講義を行った後、予行練習を行った。受講者は、1名が日本人複数名に、もう1名は留学生1名に対して日本語でインタビューを行い、録音データを書き起こして要約し、記事にまとめた。2)については、それぞれに独自の調査を行い、その結果を表やグラフで表現した。3)は文化面の記事で、日本人に詠んでもらった俳句を収集して、一句ごとに季語を調べ、詠まれた句を鑑賞し、それらに講評を添えたものを記事とした。最終日には、同プロジェクトワークの書くAと合同発表会を行った。

3. 成果と今後の課題

受講者は非常に意欲的に課題に取り組み、取材、インタビュー、書き起こしと要約、不慣れな日本語入力など、様々な課題に挑戦していた。アンケートでは、普段の作文授業とは異なり、新聞の文体を使って書くことを始めとして多くの学びがあり、楽しかったとのコメントがあった。一方で、企画段階や記事制作において進捗が遅くなったこともあったので、進度と時間配分の調整を加味した授業設計を行う必要がある。